

本書の利用法 = 英語長文読解の6つのポイント

① ポイント…その①

本書の狙いは、「はじめに」にあるように、英語の長文読解問題に出題されやすい内容の英文を、日本語を通じて十分に理解し整理しておくことにある。したがって、何よりもまず、**日本語(和訳)をよく読んで**、用いられる用語はもとより、その内容や論理の展開などに着目し、十分に理解するよう努めよう。**それができた後に、英文を読む**ようにする。

各章の本文は、典型的な論点を持つ短文を集めたPart 1と、頻出のテーマ・内容を持つ長文Part 2の2つの部分から成る(👉次頁下の「各章の構成について」を参照)。やはり、Part 1から読み始めるのがよいだろう。

なお、原文はすべて実際に入試に出題されたものであるが、明らかな間違いと思われる部分は修正してある。また一部省略してあるものなどが含まれていることをお断りしておく。

② ポイント…その②

必ずしも第1章から順に読み進む必要はなく、どの章から読み始めてもかまわない。特に苦手なテーマがあれば、そこから始めるのも悪くはない。

苦手な分野を徹底的に攻略し、それを逆に得意分野に変えていくことは、英語に限らず能率の良い学習法といえる。

どこから始めるにしても、まず「…はココをおさえる」を読んで、そのジャンルの概要をつかみ、そのうえでPart 1, 2を読んで内容の理解を深めよう。読んでいて知らない用語などが見つければ、面倒がらずに**用語辞典が国語辞典をひき**、しっかり自分のものとしておこう。こうして覚えた用語は、**一生役に立つ**。

③ ポイント…その③

それぞれの文を読むさいにはいつも、**各テーマの要点と著者の言いたいこと**とは何なのかを考え、それをまとめる作業をしよう。大切だと思われるところに線を引くなどの練習もあわせて行うとよい。

④ ポイント…その④

すべての文を、**少なくとも三度は読み返そう**。そのさい**声を出して読む**のがいい。最近いろいろ話題になっているように、音読することで、理解が進み、内容や文そのものが頭に定着しやすくなる。試してみる価値はある。

⑤ ポイント…その⑤

英文中で使用されている単語・イディオム(時に構文)の説明は「別冊」に詳しくまとめてあるが、日本語訳が頭に入っているはずだから、できれば(少なくとも三度目に読むときには)これには頼らず読むようにしたい。

⑥ ポイント…その⑥

本書を読み始めればきっと実感できるはずだが、入学試験も現実の世界と無縁ではない。**長文問題に出題されるテーマは、現代のさまざまな問題を反映している**。それがわかれば、自然と、社会の動きにも目が行くようになるはずだ。これからは、“アンテナ”を張り、多くの知識を頭に入れるようにしましょう。新聞などには、できるだけ目を通したいものだ。

各章の構成について

本書の各章は以下のような3つの部分で構成されている。

- ① 「…はココをおさえる」：それぞれのジャンルの概要や問題点、あるいは、どんな内容が入試で出題されやすいのかが、ていねいに解説されている。
- ② **Part 1 典型的な論点**(短文)：各ジャンルで論じられるポイント(主題に近い内容)を、実際の出題文から抜き出してある。これらを頭に入れておくことにより、英文を読むさい、どんな内容かピンとくるようになるだろう。
- ③ **Part 2 頻出テーマ**(長文)：入試で頻出のテーマにかかわる長文を3~4つ取り上げた。いずれも内容・文体ともに選りすぐりの良質英文である。

Part 1, 2では、各ジャンルのキーワード(頻出の表現)を、専門用語だけでなく、特有の言い回しも含めて赤字にしてある。

また、Part 1, 2とも、読者の実力に応じて、日本語(和訳)だけを読んでも相当の効果があるだろう。